

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104117		
法人名	豊友会		
事業所名	グループホーム喜楽園		
所在地	下関市豊田町大字中村819番地		
自己評価作成日	評価結果市町受理日	平成25年10月2日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年4月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に支え、共に生きる」理念のもと、優しい言葉かけと思いやりの心を念頭に、利用者一人ひとりがその人らしく、今を大切に、楽しい時間を過ごして頂けるようサービス提供を行っています。  
定期的に行っている料理教室では皆で協力しながら各々、今迄培われたことを大いに発揮して頂いています。  
開設時より季節ごとの外出や趣味活動を積極的に企画して、希望者に参加して頂いております。また、月1回のサロンコンサートなど特養と連携した行事では家族や地域の方との交流の機会の回数を重ねることで、生活を(仲間や職員と)共に楽しみ、ハリのある毎日を送って頂けるよう努めています。また近隣の小・中・高校よりボランティアや職場体験に来て頂いています。25年1月には職員全員が認知症サポーターになりました。今年度は県のキャラバンメイトの講習を受け、ご家族や地域の方々へ認知症の理解を広げていきたいと考えています。

隣接する施設で行なわれる毎月のサロンコンサートや音楽療法、創作活動に利用者に参加しておられる他、季節の行事やカラオケ大会などの行事への参加、利用者の希望を聞いて、花見やホテル観賞、各地へのドライブに出かけられるなど日々の暮らしが楽しみや張り合いがあるものになるように、支援しておられます。サロンコンサートや行事のちらしを道の駅に置いたり有線放送で案内されて、地域の人への参加を呼びかけておられ、サロンコンサートへは家族や地域の人40から50人の参加があり、利用者も共に楽しみながら交流しておられます。公民館からは事業所への取材があり、取り組みを地域に周知する協力を得ておられる他、植木や花の手入れ、畑づくりのボランティアや小・中・高校生の職場体験を受け入れ、事業所と利用者が地域の一員として日常的に交流しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示している。名刺サイズに印刷し名札に入れ携帯し、常に方針に即した介護できているか自己評価できるようにしている。朝礼で唱和し、意識の徹底に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえてつくった「共に支え、共に生きる」という理念と、職員が話し合っにつくった基本方針を事業所内に掲げている。新人職員には入社時の研修で説明し、月1回のミーティングで確認して話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小中・高校生に、ボランティアや職場体験に来て頂いている。地域ボランティアによる演奏や、月に一回サロンコンサートを開催して地域の方にも参加して頂き交流を図っている。	月1回の琴演奏や手芸のボランティアの来訪がある他、日常的に植木や花の手入れ、畑づくりのボランティアの来訪があり、ジャガイモやほうれん草などの差し入れがある。小・中・高校生の職場体験やボランティア(介護体験)を受け入れて交流している。隣接する法人施設で行うサロンコンサートは、ちらしを道の駅に置いたり有線放送で案内する協力を得て、家族や多くの地域の方の参加があり、利用者と交流している。公民館が事業所の行事を取材して取り組みを地域に周知するなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	H25年1月に職員全員が、認知症サポーターになった。今年は、キャラバンメイトの講習を受講し、地域の認知症サポーターの普及に取り組んでいる。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、この1年を振り返る良い機会になった。評価は、今回が初めてですので今回の結果を真摯に受け止め職員全員で共有しサービスの質の向上へとつなげていきたい。	管理者は評価の意義を説明して、自己評価を職員一人ひとりに聞いて、管理者と計画作成担当者、リーダーが話し合っまとめている。評価を日頃のケアの振り返りと捉えているが、全職員の主体的な評価への取り組みには至っていない。	・全職員による評価の取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月月に一回運営推進会議を開催し日々の活動の写真を取り入れた資料を作成し取り組みの内容を報告している。また地域の情報を交換して行事への参加につなげている。消防署の方の参加により防災についてのお話もしていただいた。	自治会長、第三者委員、家族、市担当課、地域包括支援センター職員の参加を得て2ヶ月に1回開催し、状況報告や活動報告を行い、看取りや水害対策などについて話し合い、地域行事の情報交換をしている。消火訓練への地域の人の参加や敬老会への参加などの意見があり、意見を活かす方向で検討している。	・運営推進会議の内容の充実
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	総合支所の担当者が運営推進会議に参加されている。サロンコンサートや行事のパンフレット等を毎回担当者へお渡しし、また町が窓口の地域の有線放送にて、行事案内を放送していただいている。今後さらに協力関係を築きサービスの向上に努めていく。	市担当課とは運営推進会議時の他、運営推進会議の議事録や行事の案内を持参した時や電話で相談や情報交換をしている。地域包括支援センターとは運営推進会議時の他、計画作成担当者が相談したり、地域ケア会議で情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠しないケアの大切さやスピーチロックや拘束についての話し合いを行っている。玄関の施錠も含め拘束しない介護に取り組んでいる。	全職員が身体拘束についての研修を受講し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて月1回のミーティングで話し合い、日々の中で気になる場所は管理者が指導したり、職員同士で話し合っている。玄関に施錠をせず、外出を察知した時には職員が一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、入居者の方の立場を十分に理解した対応の仕方や言葉使いに気をつけ、入居者の表情や発言などから些細な変化を見逃さないまた、職員の価値観や思い込みで対応しないなどし、虐待・拘束が起こらないよう努力している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、25年度に外部研修を予定している。しっかり学んで、更に内部研修を行い活用できるよう取り組んでいきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書などをもとに丁寧に説明している。疑問点にはしっかり答え、理解・納得していただけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制については、施設内への掲示を行うとともに重要事項説明書に記載している。また、気軽に書いて頂けるよう苦情箱ではなく意見箱を設置している。	契約時に苦情受付体制や処理手続き、第三者委員などを説明する他、事業所内に掲示して周知している。玄関に意見箱を設置し、運営推進会議や行事への参加時や面会時、電話等で意見や要望を聞いている。出た意見や要望はミーティングで話し合いケアに反映させているが、運営に関するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に一回面談を行い意見を聞く機会を設けている。 管理者から職員へ声かけを心がけ常に提案を聞くようにし、あがった提案は会議等で話し合い、できる限り実現できるよう努めている。	月1回のミーティングや6ヶ月に1回の面談で意見を聞く機会を設けている他、日常のコミュニケーションの中で聞くように努めている。ケアチェック表の書式の改善や浴槽の滑り止めマットの導入など、意見を反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に自己点検シートを記入してもらい、その後面談を行いその時の意見や提案を参考にし、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関しては、勤務など調整して受講しやすい環境を作っている。 研修に関しては、回覧にて職員に伝え希望者はできる限り研修受講してもらっている。	外部研修は情報を伝え、段階や希望に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。参加者はミーティングで復命し資料を閲覧して職員間で共有している。資格取得については勤務の調整をするなどの支援をしている。内部研修は、同じ内容で2回実施し全職員が受講できるよう工夫して、感染症、誤嚥、ボディメカニクス、緊急時対応などをテーマに3ヶ月に1回実施している。今年1月から毎月実施している。新人は法人で2日間研修したのち、日々のケアの中で介護技術や知識を学べるよう先輩職員が指導している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	4月に開設1年間は施設内の充実に力を入れてきた。そのため、限られた交流しかしておらず今後は、幅広くネットワーク作りや勉強会等行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご本人の話をゆっくり、しっかり聞くことを心がけ、入居への大きな環境の変化を最小限にするよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族との話し合いを持ち、施設の方針等を理解して頂き、困っていること、不安なこと、要望などを聞きながら相互の関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望をしっかりと受け止め、見極めることは難しいが1つ1つ確認し合いながら、話を進めている。言葉のすれ違いがないよう細かい所まで話し合うよう努力している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いつも入居者と同じ視点で、笑顔を大事にそっと寄り添い、自然に気持ちが共有できるような関係を築くよう努めている。料理作りやおやつ作りでは、職員が教えられることも多い。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際に、ご家族にご本人の状態をしっかりと話すことを心がけ、また月1回グループホーム新聞を作成し日々様子をご家族に伝え共に支えあう関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を多く作っている。また、親戚や知人の面会にはできる限り時間を制限せずに来て頂くようにしている。今後は、馴染みの場所や思いの場所のマップ作りなど取り組んでみたい。	家族や友人、知人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状の支援、馴染みの美容院の利用や、家族の協力を得て墓参りや外泊、外食などの支援をして、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮した配席を工夫したり、趣味活動を通じお互いに協力、支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院入院し退所になったご家族にも、サロンコンサートや行事の案内を送っている。ご家族からも退院できるようになったら、また戻ってきたいとの意向をお聞きしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを受容しながら共に生活する中で、個別に面談を行い一人ひとりの希望や気持ちを受け止め日々の生活に反映させていくように努めている。	入居時のアセスメントの活用や日々の関わりの中で希望や意向の把握に努め、3ヶ月ごとに計画作成担当者やリーダー、担当職員がケース検討をして希望や好みなどの情報を共有している。困難な場合は家族から情報を得る他、職員が話し合い本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談の際にご家族より生活歴や暮らしぶりの把握に努め、情報交換の場を設け理解を深めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事量・水分摂取量・排泄状況など、ケース記録健康記録等に記入し、一日の状態の把握をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを基に家族からの意見を聞き、職員が利用者の現状を把握した上で“自分らしい生活を実現する”ことを前提に介護計画を作成している。	計画作成担当者やリーダー、担当職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の意向や主治医等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとに見直しをしている。	・モニタリングの工夫
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や連絡帳を通し、職員間で情報の共有をしている。介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望による買い物等の外出には、できる限り柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営会議を中心に地域との情報交換が広がっている。地域資源はもっと活用し、更に豊かな暮らしへ取り組んでいきたい。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医の受診支援や受診結果に関する情報の共有をし、適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望する利用前からのかかりつけ医や、協力医療機関をかかりつけ医とし、他科の受診を含めて、家族の協力を得て受診支援をしている。協力医療機関から月2回往診がある他、緊急時の対応の協力体制ができています。受診時には情報を提供し、結果は家族と職員が共有して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、日々の健康管理・医療機関への連絡、調整を行っている。入居者の変化を見逃さないよう気を付け、看護職への相談・報告を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院とも情報交換に努めている。地域連携室の方とは、看護師を通して関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、ご本人・ご家族の想いを受け止め、意志統一を図りながら支援し、職員間でも十分な話し合いをもち取り組んでいきたい。	契約時に、事業所が対応できるケアについて医療機関や他施設への移設も含めて説明している。重度化した場合や終末期のあり方について、運営推進会議の中で検討し、職員間での話し合いをして、本人や家族の思いを尊重した取り組みをしていくこととしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告書・ヒヤリハット報告書を作成し、再発防止策をスタッフ内で話合っている。緊急時の対応（異物除去・救命処置）の施設内研修を行っている。また、マニュアルはいつでも閲覧できるようにしている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、職員間で対応策を話し合い、翌日の朝礼で確認し共有している。法人の事故防止対策委員会でも検討し、介護計画に反映させて、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。誤嚥(2回)と心肺蘇生(1回)について研修を行っているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対策について、消防署より避難場所などの情報も頂いている。避難訓練は、夜間想定を含め2回行っている。また、消防署の要望により防火訓練を1回行っている。	消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を利用者も参加して年2回行うと共に、年1回防火訓練を行っている。運営推進会議で消防署から水害対策についての講話を受け、避難訓練への地域の人の参加を話し合っているが、地域との協力関係を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者に対する礼儀と尊敬の念を持って接するようにしている。 相手の言動や心情に合わせ、間違いを訂正、否定せず相手の話をしっかりと聞くようにしている。	人格の尊重とプライバシーの確保について採用時に説明し、月1回のミーティングで職員間で話し合っており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。守秘義務を理解し、個人記録等の保管や取り扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で伝えたいこと、行動したいことを表現できるよう、ご本人の些細な表情や発言を見逃さないようにいつも気を付けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、その方の体調や気分を大切にしている。 ご本人の興味を示したことや希望を聞き、その人にあわせて援助している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝髪を整え、洋服選びは、職員も一緒に選んでいる方もいる。訪問美容室を利用されている方が多く、ご本人さんの希望に合わせた髪型にして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け・配膳・下膳・テーブル拭き、等それぞれその人ができることをして頂いている。また、毎食事前に嚥下体操を行っている。職員も一緒に食事をし、会話を楽しんでいる。	三食とも外部の厨房からの配食を利用している。月1回以上、調理企画やおやつづくり企画の日を設け、利用者の希望を聞いて献立をつくり、利用者と一緒に買い物や下ごしらえ、調理、盛付け、片付けをして、利用者と職員は同じものを同じテーブルで食べ、会話を楽しんでいる。差し入れの野菜を使って一品料理を作ることもある。一人ひとりの状態に合わせてきざみなど形状に配慮し、季節の行事食や誕生会の食事、バイキング、うどんやそば打ち、手作り餃子、おやつ(ホットケーキ、桜餅、おはぎ、団子など)、外食など食を通しての工夫をして食事をたのめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は委託しており、併設の特養の栄養士がバランス等管理している。食事量・水分量の摂取量を記録している。水分にはとろみをつけるなど、その方に合った食事を提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医による研修を受け、毎食後個別に口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表により、その人に合ったトイレ誘導、おむつ交換を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時乳製品を飲んで頂いている。排泄状況を健康観察チェック表で行っている。天気の良い日はできる限り、施設内やその周辺を散歩している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に関しては曜日や時間を決め対応しているが、本人の希望があれば随時入浴して頂いている。また入浴嫌いの方は、その方のタイミングで入浴して頂いている。	13時30分から15時の間、利用者の希望に添って毎日入浴できる。入浴したくない人には時間をずらすなどして、タイミングや声かけの工夫をしている。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足湯の支援をし、マイクロバブルバスで入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、居間にいることが多いが、ソファへの置き方等ゆったりと生活して頂けるよう工夫している。また、居室ではその人に応じた温度調節や布団の調節を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧がファイルしており、飲まれている薬を把握できるようにしている。臨時薬が出た時は、連絡簿に記入し徹底に努めている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物畳み、掃除、カラオケ、ぬり絵、折り紙、散歩、体操や行事の声かけなどにより、少しでも笑顔が見れるよう支援している。また、併設の特養へ出かけて、音楽療法や創作活動に参加している。	事業所の季節の行事(餅つき、節分、ひな祭り、敬老会など)や運動会ネイル、カラオケ大会、嚙下体操、福笑い、猿回し、手芸、ぬり絵、折り紙、手づくりのうちわ、年賀状、お雛様づくり、おやつづくりやゴーヤの佃煮、餃子、うどん・そば打ち、法人で行う毎月のサロンコンサートや音楽療法、創作活動への参加、ボランティアとの交流や洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、散歩、買い物などの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が張り合いや喜びのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周りの散歩をしたり、車にてドライブしたりしている。少し離れた場所でも、四季折々の風物に触れる機会を増やし外出の機会を持つよう努めている。	週1回の買い物に外出したり、事業所敷地内外の散歩をしている。利用者の希望を聞いて、花見(桜、菖蒲、コスモス、もみじ)やホテル観賞、ドライブ(法輪寺、豊功神社、みのりの丘、東行庵、ふくろうの森、角島など)に出かけている。家族の協力を得て外泊、外出、外食、墓参りなどに出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いにより、現在お金を所持されている方は居ないが、外出等で必要な時はご家族に持って来て頂いている。また家族からの預かり金がある方は買い物へ出かけている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて、ご家族と電話でお話しができるよう支援している。手紙や年賀状も出せている。また、近隣の小学生から年賀状を頂き、返事を出している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居間の温度・湿度をチェックし加湿などを用い、健康的な環境を保つよう努力している。掃除はこまめにし清潔を保っている。居間に季節の花を飾り、廊下には作品を掲示し居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	食堂兼リビングは広く、大きな窓からは日差しが廊下まで入り込み、食卓に座って登下校の児童の様子や山々の景色を眺めることができる。玄関やリビングに生花や季節に合わせた飾りを飾り、テレビの前のソファなどで思い思いにくつろぐことができる。浴室やトイレには安全に配慮した手摺があり、ゆったりとした広さがある。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファーや食席、好きな場所で過ごせるようにしている。気の合ったもの同士が近くにいられるよに気を配っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使用されていた家具や好みの物を持って来て頂き、一人一人が居心地よく過ごせるようにしている。	ダンス、小ダンス、テーブル、テレビ、冷蔵庫、コタツ、座椅子、鏡、スタンド、時計など思い思いの家具や本、化粧品などの生活用品を持ち込み、花を生けたり作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、廊下や浴室、トイレは手すりがあり、体を支持しながら移動して頂くようにしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名： グループホーム喜楽園

作成日： 平成 25年 10月 1日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員一人ひとりの緊急時の対応について実績が不十分である	応急手当や初期対応が全職員ができるようになる	事故防止対応委員より勉強会を実施する。毎月の会議を利用して、併設の特養看護師の協力を得て緊急時の対応(心肺蘇生・異物除去)について実践・訓練を行う。緊急蘇生法手順を目につく所に置き日頃より確認し、緊急時に対応できるようにする。	1年
2	36	地域との協力体制が構築されていない	地域住民の協力を得て一緒に訓練を行う	年2回避難訓練を予定しているが、1回は自治会長や民生委員さんを含め計画段階から一緒に取り組み地域と一体で避難訓練ができるようにする。	6ヶ月
3	4	管理者、計画作成担当者、リーダーのみで話し合い作成している	全職員が日常生活を振り返り自己評価に取り組む	自己評価の結果をもとに、全職員の意識統一を図り目標を立てる。その目標に基づき支援に取り組み全員で評価につなげていく。	3ヶ月
4		法人全体の理念と基本方針しかない	グループホーム独自の基本方針やケア方針を作成する	①家族が気軽に訪れる事ができる環境作り ②入居者の立場に立った見方、考え方が出来るケア ③人間としての尊厳や権利を損なうことなく、その人らしく暮らせるケア ④地域住民に開かれた施設作り地域と共にあること・地域の一員として暮らし続けることのできるケア ①～④を念頭にグループホーム喜楽園の基本方針	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。